

第2回 見附市立学校配置等検討委員会

令和6年6月27日（木）

見附市役所 4階 大会議室

第2回 市立学校配置等検討委員会



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS
見附市は持続可能な開発
目標（SDGs）を支援し
ています

令和6年6月27日

＜第5次見附市総合計画 まちづくりの基本理念＞

「住みたい 行きたい 帰りたい
やさしい絆のまち みつけ」

スマートウェルネスみつけ
～住んでいるだけで健康で幸せになれるまち～

見附市教育大綱

「ふるさと見附を愛する子ども」

「世に役立つことを喜びとする子ども」

【見附市教育委員会の基本理念】 <見附市教育大綱>

① ふるさと見附を愛する子ども ② 世に役立つことを喜びとする子ども



0歳から18歳までの一貫した支援

0歳から18歳までの成長を健康、食、自立、社会性の育成等の観点から捉え、学校・園・保護者・地域がそれぞれの役割を果たしながら、連携・協力し、子どもたちの「心柱」「人間力」を育てるための切れ目のない支援を行う。

<施策>

- ☆「四つ葉運動」(あいさつ 読書 花と緑 お手伝い)
- ☆「見附 子育て 教育の日」(見附子育て教育週間)
- ☆「スクールアカウンタビリティinみつけ」

共創郷育

地域の人材と資源を活用した教育の充実

保護者、地域の皆さんが「学校応援団」として学校を支えてくださり、学校、保護者、地域の大人が総がかりで子どもの育ちにかかわることで、教育の質の向上を図るとともに、学校と地域が元気になるサイクルを創出する。

<施策>

- ☆「みつけコミュニティ・スクール」の推進
- ☆「わくわく体験塾」の推進
- ☆みつけわくわくアクションプラン等

【四つ葉運動】

あいさつ

「絆」のいしずえ



花と緑

命のバトンをつなぐ



○【「四つ葉運動」の推進】

読書(読み聞かせ)

深く考える力



お手伝い

役立つ喜び



【見附 子育て 教育の日】

○【見附 子育て 教育週間】

- ・保育園・学校から保護者・地域に対して「四つ葉運動（挨拶、読書、花と緑、お手伝い）」への積極的な取組をたより等で働き掛ける。
- ・家族で過ごす時間を見直したり、子どもとの関わりを深めたりするよう働き掛ける

○【見附 子育て 教育の日】 スクールアカウンタビリティinみつ

各学校の特色ある教育活動を、市民・保護者へ紹介



【コミュニティスクール】

○【市内全小中特別支援学校がコミュニティ・スクール】

学校の積極的な情報提供



**地域の応援
地域との協働**

地域学校協働本部

**学校が元気に！
地域も元気に！**

熟議の創出

課題の共有



【わくわく体験塾】

【ねらい】

学校・学年・学級の枠をこえた異年齢交流を通して、互いに協力し、相手を思いやる心を育てるとともに、幅広い講座の中から、わくわく・ドキドキする感動体験を得ることにより、いろいろな事象への興味関心を広め、学ぶことの楽しさ・意欲を高める。



○学校、保護者、NPO、企業、行政等**市民が総がかり**で多様な講座を開設。
令和5年 144講座(前年比+9) 1921人の子どもたちが参加。

【わくわくみつけアクションプラン】

○子どもたちの「生きる力」と「学ぶ意欲」を引き出すために学校が地域との連携と創意工夫により特色ある学校づくりを支援するための事業

○校長の裁量として実施する事業

- (1)わくわく・感動を伴う教育活動、豊かな体験活動を伴う教育活動
- (2)吐息の歴史、文化、自然環境に関わる教育活動
- (3)学校内緑化などの花いっぱい運動に関わる教育活動
- (4)地域や団体との連携・協力によって行う教育活動
- (5)わかる授業・言語活動の充実に関わる教育活動
- (6)見附市子ども読書活動推進計画に基づく教育活動
- (7)学校間の連携を促進する教育活動

米作り体験 仕事体験 コミュニティとの連携 フラワーロードづくり
スキー教室 獅子舞活動 飼育活動 みつば太鼓

【防災教育】

- 学校の立地条件や地域の実情に応じた、防災体制の整備と防災教育の推進
- 自然災害等から自他の命を守る主体的な判断力や行動力の育成

・市内全13校で「防災スクール」の実施
学校、地域の実情を生かした防災教育の推進



・見附市総合防災訓練
令和5年度の中学生ボランティア参加数 **240人**



・市内中学校で防災タイムライン作成(R3～5年度)



Eボート体験

【健やかな体の育成と体力向上】

- 全校体制による運動意欲を高め体力を向上させる取組と健康教育・食育の推進
- 家庭や地域と連携した、健康三原則に基づいたよりよい生活習慣の定着

<施 策>

- ☆SWS(スマートウエルネススクール)に基づく事業(住まいるハンドブックの活用、フッ化物洗口実施、担当嘱託指導主事の配置)
- ☆「スペシャリスト派遣」事業 ☆「1学校1取組」運動の推進
- ☆食物アレルギー対応の充実 ☆「食育」の推進
- ☆学校保健委員会の有効活用の推進
- ☆「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進 ☆小児生活習慣病予防事業

★市事業との連携 「薬物乱用防止教室」「喫煙防止教室」

賢く＝スマート

健幸(けんこう)＝ウエルネス

学校教育を介して＝スクール



健康指導

【部活動の地域移行】

◎見附市地域スポーツ・文化クラブ活動環境整備方針の策定（令和5年3月）

- 見附市の取組 **令和5年度～7年度は 中学校部活動改革集中期間**
令和8年度には、休日に「学校の部活動を行わない」ことを目指す。
- 令和4年度
「**部活動の改革**」と「**市内のスポーツ・文化活動の在り方**」を一体的に議論するため、「検討委員会」を設置し、『整備方針』を策定
- 令和5年度
・「**卓球**」「**ソフトテニス**」において、**地域クラブの活動を開始**。
・文化部の在り方を検討開始。
- 令和6年度（新チームから）
・「**野球**」「**バレーボール**」「**女子バスケットボール**」において、**地域クラブの活動を開始**。

・まちづくり課と教育委員会とで、
地域での中学生の活動の場を増やす取組を検討し、推進する。



【みつけJobチャレ教育】

育みたい力

官民学の連携

起業家精神

起業家的資質・能力

みつけJobチャレ教育

講演会・出前授業

職場体験・職業体験

模擬会社設立体験

みつけビジネスアイデアコンテスト

ゲーム推進プロジェクト



見附第二小
地域産のお米や野菜等の販売



新潟小
地域食材「にら」を使ったメニュー提案

- ▶ 他者と協働しながら新しい価値を創造する力を育成
- ▶ 将来的な見附での起業・創業も期待

特色ある学校について 【事例紹介】

みつばプラン校の魅力

小規模の良さを十分に生かしたきめ細やかな指導が行われている学校です。

学力、体力だけではなく、各種大会・コンクールに多くの入賞者が出ています。

3校ともユネスコ本部からユネスコスクール加盟校として認定された学校です。

豊かな教育活動のもと、体験を通して学ぶことを大切にしています。

見附第二小学校

田井小学校

上北谷小学校

**一人一人が主役!!
コミュニケーション力もアップ!**

特色ある学校について 【事例紹介】

みつばプラン（三校の合同学習）

自然教室



●自然教室

みつば3校の5年生が大平森林公園で自然教室に参加します。
3校の子どもたちがグループを作り、Eボートを体験したり、自然散策をしたりします。大自然の森の中で3校の子どもたちは「自然」と「仲間の心」に触れます。

フットサル教室



●フットサル教室

みつば3校の3、4年生が上北谷小学校体育館でフットサル教室に参加します。
講師はアルビレックス新潟サッカースクールコーチの皆さんです。前半は仲間と楽しくボールに親しむ活動を行い、後半はチームを編成してミニフットサルゲームに挑戦します。
3校の子どもたちが楽しく身体を動かしながら運動に取り組み親睦を深めます。

オンライン活用授業



●オンライン活用授業

みつば3校の子どもたちがオンラインでつながり、学習を進めます。
学年や学習に応じたテーマを設定し、そのことについて自分の考えを他校の友達に紹介したり、教えてもらったりしながら学びを進めます。オンラインでつながる3校の友達と意見を交わして交流を深め、考えを広めます。

オープンスクール 【小規模特認校制度】

- 見附第二小 田井小 上北谷小の3校以外の学校から希望する児童の進学を認めている。
- 新潟県：新井南小 太田小・中学校 栃窪小 後山小（計7校）

1 小規模特認校制度とは

小規模特認校制度は、文部科学省による「通学区域制度の弾力的運用について（通知）」（平成9年1月27日付け文初小第78号文部省初等中等教育局長通知）以降に導入された「学校選択制」の一つである「特認校制」のうち「小規模校」において取り入れられている制度。

【小模様のメリット】

- ・きめ細やかな教育 地域に根付いた特色ある教育 複式(わたり) 人間関係(良く知っている)
- ・様々なリーダー経験 地域とともにある学校づくり

【小規模校のデメリット】

- ・複式(対話的な学び) 多様な発言・考えが出にくい 社会性の育み 人間関係(固定化)
- ・多様な活動が仕組みにくい 競い合う適切な場や人間がない



【小模様のよさを生かす方策】

【資料 初等中等局 初等中等教育企画課 教育制度改革室】

- ・少人数であることを生かした教育活動（外国語の指導や実技指導）の徹底
- ・個別指導・繰り返し指導の徹底等による学習内容の定着
- ・地域との密接なつながりを生かした校外学習・体験活動の充実

【小規模校の課題を緩和する方策】

- ・小中一貫教育による一定の学校規模の確保
- ・社会教育施設等との複合化による教育活動の充実
- ・ICTの活用による他校との合同授業 ・小規模校間のネットワークの構築

【事例紹介】

【小中一貫教育】

小中一貫教育のモデル 新潟市

制度化された学校	従来の小中学校
義務教育学校	小中一貫型小中学校（併設型・連携型）
	
校長1人	各校に校長1人
独自教科設定・小中で指導内容入替あり	なし
9年間の教育目標設定 9年間の系統性・体系的に配慮	
市町村の条例による	市町村教委の規則による

【事例紹介】

【小中一貫教育】

三条市小中一貫教育 （「みんなで創る小中一貫教育」H29.3.31発行より）

H20.11

三条市小中一貫教育基本方針の策定

H25

市内全ての小中学校で全面実施

義務教育学校(小中一体型校舎)

中学校併設型小学校 小学校併設型中学校 分離型校舎 名称「学園」

指導区分 (4-3-2)

【ねらい】 小・中9年間で継続的なものとして編成し児童生徒の心身の発達に応じた教育を行う

連携・交流をよりしやすい環境をつくる。

保護者・地域とともによりよい教育環境づくりを推進する

【効果】 中一ギャップの解消

基本的な生活習慣の定着や自分を大切にできる心が一層培われる

いじめ不登校の減少

小中の学習をスムーズに連続させる指導が期待できる

【成果と課題】

成果 中学校進学への不安軽減 中一ギャップに起因する不登校数の減少

教職員の意欲の向上

課題 児童生徒の学習意欲の肯定評価に変化が見られなかった

【事例紹介】

【学校選択制】

【自由選択制】

当該市町村内の全ての学校のうち、希望する学校に就学を認めるもの

◆埼玉県戸田市 学習意欲の向上や学校の特色づくりを目指した学校選択制

導入年度：平成17年度 対象校：中学校6校

◆大分県豊後高田市 地域に根ざした特色ある学校づくりを目指す学校選択制

導入年度：平成15年度 対象校：年度により異なる

【ブロック選択制】

当該市町村内をブロックに分け、そのブロック内の希望する学校に就学を認めるもの隣接区域選択制 従来の通学区域は残したままで、隣接する区域内の希望する学校に就学を認めるもの

◆東京都日野市 複数通学区のブロック化による学校選択制

導入年度：平成13年度 対象校：小学校17校、中学校8校

【特認校制】

従来の通学区域は残したままで、特定の学校について、通学区域に関係なく、当該市町村内のどこからでも就学を認めるもの

◆福岡県北九州市 小規模校特別転入学制度（のびのびフレンドリースクール）

導入年度：平成11年度 対象校：小学校3校

【特定地域選択制】

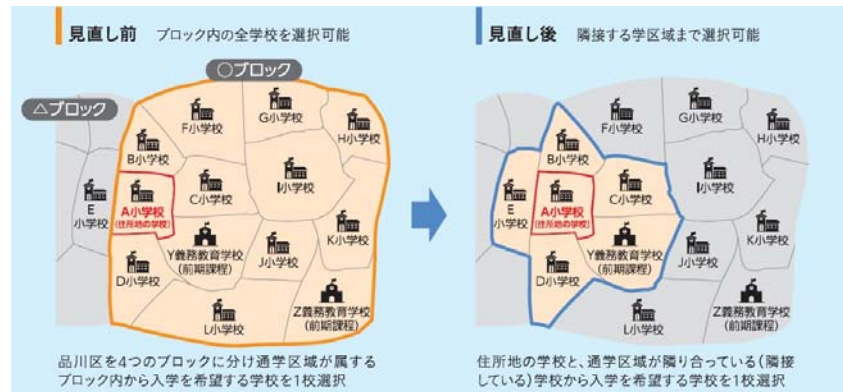
従来の通学区域は残したままで、特定の地域に居住する者について、学校選択を認めるもの

事例紹介 【学校選択制】

東京都品川区

- H12 小学校 学校選択制 区を4つのブロックに分けその中で選択
 H13 中学校 // 区内全域から選択
 ※学区域の児童生徒を最優先として受け入れた後、受け入れに余裕が生じた場合に受け入れる。
 H25 小中一貫教育 施設一体型の義務教育学校6校設置
 R 2 学校選択制・通学区域について一部見直し。

◆学校を選択できる良さを保ちながら、「地域とともにある学校づくり」を推進し、また遠距離通学を解消するため、以下とおり制度を変更する。
 ◆新入学時の学校選択は、「ブロック内選択」から原則として「隣接校」を選択する仕組みに変更する。



【事例紹介】 【学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)】

【設置状況】 35校(公立学校21、私立学校14校)
 上越市「学びの多様化学校」の設置に向けた検討を開始 (5/24)

【制度の概要】

不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する必要があると認められる場合、文部科学大臣が、学校を指定し、特定の学校において教育課程の基準によらずに特別の教育課程を編成して教育を実施することができる。

【留意事項】

- ・不登校児童生徒以外の児童生徒については、特別の教育課程の対象にはなり得ない。
- ・不登校児童生徒の実態に配慮し、例えば不登校児童生徒の学習状況にあわせた少人数指導や習熟度別指導、個々の児童生徒の実態に即した支援（家庭訪問や保護者への支援等）、学校外の学習プログラムの積極的な活用など指導上の工夫をすることが望ましい。

学校名	管理機関	所在地	業務の概要
大和郡山市立 郡山中学校 分教室「ASU」 (令和5年4月開校)	大和郡山市 教育委員会	奈良県 大和郡山市	不登校児童生徒の学習の場として、学科指導教室「ASU」を設置し、学年を超えた習熟度別指導、児童生徒の興味・関心に応じた多様な体験活動などを行う。
大阪市立 心和中学校 (令和6年4月開校)	大阪市 教育委員会	大阪府 大阪市	各教科の時数削減の代わりに総合的な学習の時間数を追加し、一人ひとりの興味や関心に基づいた手法やアプローチにより、他者と協働しながら課題解決に向けた研究を進める。

第2回 見附市立学校配置等検討委員会

(追加資料)

令和6年6月27日(木)
見附市役所 4階 大会議室

1. 第1回委員会での質問事項等について

(1) 新潟県の小中学校の状況

単位：人

児童生徒数	H12	R4	増減	増減率%
小学校	148,875	101,894	△ 46,981	△ 31.6
(見附市)	2,765	1,851	△ 914	△ 33.1
中学校	84,473	52,709	△ 31,764	△ 37.6
(見附市)	1,602	971	△ 631	△ 39.4

単位：校

学校数	H12	R4	増減	増減率%
小学校	645	441	△ 204	△ 31.6
(見附市)	8	8	0	0.0
中学校	255	230	△ 25	△ 9.8
(見附市)	4	4	0	0.0

平成の市町村合併をしなかった市や同規模の市の状況

↓

	小学校									中学校					
	2024/4/1		学校数			児童数				学校数			生徒数		
	人口	面積 km2	H12	R4	増減率%	H12	R4	増減率%		H12	R4	増減率%	H12	R4	増減率%
新潟市	767,713	726.27	119	108	△ 9.2	47,986	37,953	△ 20.9		62	61	△ 1.6	27,034	19,590	△ 27.5
長岡市	256,708	891.06	75	56	△ 25.3	17,453	12,848	△ 26.4		30	29	△ 3.3	9,912	6,993	△ 29.4
三条市	90,438	431.97	24	19	△ 20.8	6,707	3,842	△ 42.7		9	8	△ 11.1	3,813	1,996	△ 47.7
柏崎市	76,427	442.03	28	20	△ 28.6	5,653	3,463	△ 38.7		12	11	△ 8.3	3,251	1,722	△ 47.0
新発田市	90,829	533.11	26	15	△ 42.3	6,869	4,764	△ 30.6		10	10	0.0	3,915	2,279	△ 41.8
○ 小千谷市	32,332	155.19	17	8	△ 52.9	2,416	1,510	△ 37.5		5	5	0.0	1,391	925	△ 33.5
○ 加茂市	23,536	133.72	7	6	△ 14.3	1,927	985	△ 48.9		5	5	0.0	1,135	543	△ 52.2
○ 十日町市	46,145	590.39	38	17	△ 55.3	3,835	2,203	△ 42.6		10	10	0.0	2,151	1,072	△ 50.2
○ 見附市	37,674	77.91	8	8	0.0	2,765	1,851	△ 33.1		4	4	0.0	1,602	971	△ 39.4
村上市	53,189	1,174.17	29	13	△ 55.2	4,432	2,257	△ 49.1		9	7	△ 22.2	2,416	1,022	△ 57.7
燕市	74,745	110.94	15	15	0.0	5,249	3,628	△ 30.9		5	5	0.0	2,809	1,875	△ 33.3
糸魚川市	37,688	746.24	23	14	△ 39.1	2,824	1,602	△ 43.3		5	4	△ 20.0	1,676	925	△ 44.8
妙高市	28,581	445.63	19	8	△ 57.9	2,503	1,305	△ 47.9		4	3	△ 25.0	1,371	676	△ 50.7
五泉市	44,681	351.91	11	9	△ 18.2	3,463	1,997	△ 42.3		6	4	△ 33.3	2,072	1,080	△ 47.9
上越市	179,987	973.89	67	48	△ 28.4	13,086	9,037	△ 30.9		23	23	0.0	7,319	4,662	△ 36.3
阿賀野市	38,829	192.74	14	8	△ 42.9	3,116	1,877	△ 39.8		4	4	0.0	1,892	969	△ 48.8
佐渡市	46,871	855.68	38	22	△ 42.1	3,883	2,154	△ 44.5		19	13	△ 31.6	2,271	1,047	△ 53.9
魚沼市	32,082	946.76	13	9	△ 30.8	2,817	1,394	△ 50.5		6	5	△ 16.7	1,673	790	△ 52.8
南魚沼市	52,413	584.55	20	16	△ 20.0	4,264	2,733	△ 35.9		6	4	△ 33.3	2,427	1,387	△ 42.9
胎内市	26,997	264.89	11	5	△ 54.5	2,043	1,277	△ 37.5		4	4	0.0	1,224	616	△ 49.7
町村	69,625	1,954.92	43	17	△ 60.5	5,584	3,214	△ 42.4		17	11	△ 35.3	3,119	1,569	△ 49.7
計	2,107,490	12,583.97	645	441	△ 31.6	148,875	101,894	△ 31.6		255	230	△ 9.8	84,473	52,709	△ 37.6

※市町村合併前の学校数、児童生徒数は合併後の市町村に加算してある。○は合併しなかった市。

平成12年度から令和4年度までに統廃合がなかった市は、小学校は2市、中学校は9市です。

(2) 光熱水費について

R5年度	校舎棟 運動場		①			公共料金 (円)				③		③÷①		③÷②	
	m2	m2	児童生徒数	学級数	教員数	電話	ガス	上下水道	電気	計		1人当り		1学級当り	
見附小	8,095	1,736	512	26	42	444,926	2,873,236	1,608,774	9,241,478	14,168,414		27,673		544,939	
葛巻小	5,169	1,260	445	21	30	308,756	2,966,959	890,417	5,487,909	9,654,041		21,694		459,716	
田井小	1,952	763	47	6	11	171,851	1,345,626	547,541	2,467,842	4,532,860		96,444		755,477	
上北谷小	2,468	922	25	4	8	164,003	505,037	329,736	2,655,656	3,654,432		146,177		913,608	
南中	5,352	1,676	201	9	20	250,980	2,123,498	1,243,558	4,179,268	7,797,304		38,793		866,367	
西中	5,460	1,327	304	11	24	365,397	1,875,890	1,092,480	5,085,463	8,419,230		27,695		765,385	

学級数には特別支援学級を含む。上北谷小のガス代金は暖房用灯油代金を計上してある。

(3) 美里町の学校区について



(4) 子どもたちの声や先生方の声、保育園幼稚園の方たちの声について

令和5年4月に施行された「こども基本法」では、第11条において、こども施策の策定・実施・評価に当たっては、こどもや若者、子育て当事者等の意見を反映させるために必要な措置を講ずることが、国及び地方公共団体に義務付けられています。

見附市では、令和5年に実施した第4回タウンミーティングで市内小中学生を対象に「5年後10年後の見附市の学校を考えてみよう」をテーマに様々な意見をいただきました。詳細はタウンミーティング報告書をご覧ください。

1年生になったら 友達100人できるかな

いちねんせいになったら
いちねんせいにになったら
ともだちひやくにんできるかな
ひやくにんでたべたいな
ふじさんのうえでおにぎりを
ばっくん ばっくん ばっくんと



今、日本全国で人口減少がすすんでいます

特に、子どもの数が減少しています



以前は体育館も満員でした

登校班の人数も
減っています



～5年後、10年後の見附市の学校を考えよう～

どんな学校に通いたいですか？



また、市では様々なテーマで「ふれあい懇談会」を実施しておりいろいろな意見等をお聞きしています。詳細は次ページ以降の一覧表をご覧ください。



【一覧表】ふれあい懇談会における学校関連の意見（令和6年5月開催まで）

テーマ①：子育て

番号	意見・質問の内容
1	中学校の部活動について、先生の働き方改革や生徒数の減少もあり、学校単位の運営は難しい状況だと思う。しかし授業以外で身体を動かしたり、文化活動にいそしんだりする機会が失われてしまうのは残念。スポーツにしても文化活動にしても部活動の選択肢がある、ということが子どもの権利だと考えるし、そういうことが言える市であってほしい。
2	夏休みのみ放課後児童クラブに預けたいと申込したが、第2希望のクラブとなると言われた。第2希望は学区外のクラブで、小学校とは違う人間関係になる。それが子どもにとって良い影響をもたらすかもしれないとの期待もあるが、他方で心配な思いもある。

テーマ②：子どもの安心・安全、住み続けたい地域づくり、子どもを育てる環境づくり

番号	意見・質問の内容
1	中高生の通学について。小学生はスクールバスで送迎してもらっているが、中学生は自転車通学している。冬場は帰りだけコミュニティワゴンで送迎してもらっているが、運行の段取りを保護者で行いコミュニティにお願いしているという背景。さらに高校生は、駅までの交通手段がなく、家族の送迎に頼らざるを得ない。公共交通機関の充実など、歩いて通学できる地域と同じように教育を受けられるような環境整備をお願いしたい。
2	放課後児童クラブについて、高学年は入所を断られてしまう。長期休みに子どもを一人で家に置いておくのは不安があり、希望者全員が入れる体制を望む。
3	中学校の部活動について、今後どうなっていくかお示しいただきたい。
4	中学校の部活動について、ソフトテニスと卓球から地域移行を行うことだった。サッカーなども中学校には部活がないため続けられない現状があり、他競技についてもできるだけ早めに地域に移行していただきたい。
5	小学校の統廃合の話はあるのか。統合すれば立派な建物が一つ無駄になるということはあるが、同級生が少ない状況は望ましくない。子どもが社会に揉まれた方がよいという意味で統合してほしいという気持ちもある。
6	小学校の児童数が少なくなっている。中学校も同様で、空き教室も増加している。例えばの話、学校を統合すれば財政負担は減る。長期的なビジョンで統廃合について考えていくことはあるのか。
7	学校統廃合の質問に関連して、小規模校に指導力のある先生が回ってこなくなっている気がする。小さい学校だからといって、しわ寄せを来させないようにしていただきたい。だからといって統廃合を急いでほしいというわけではない。栃尾地域では保護者の方から学校の統合を急いでほしいという声があり、長岡市教育委員会も統合に向けて動いていると聞いているが、長岡市はコミュニティスクールが発達しておらず、コミュニティの力が弱いので同じに考えることはない。ただ、児童数が減少しているという前提に立って統廃合について議論してほしい。保護者の声をよく聞いてほしい。
8	人口減少が進むと他市のように学校統廃合の流れが出てくるが、本当にそれでよいのだろうか。個人的にはできるだけ学校を存続させてほしい。子どもの学力や社会性を育むためにはある程度の児童生徒がいたほうがよいという声もあるが、地域に学校があることでコミュニティが活性化している側面もある。費用対効果という尺度だけで統廃合を決めてほしくないし、児童生徒数が増えることが本当に学力や社会性の向上につながるのか、しっかりと情報収集し分析を進めたうえで判断してほしい。
9	学校の統廃合に反対という意見があったが、児童数が少なくなっていく中で学校の今後に不安を抱いている人もいる。子どもには地元に戻ってきてほしかったが、小規模校ということがネックでUターンを忌避された。

テーマ③：「子育てするならやっぱり見附」の推進に向けて（市立学校教員）

番号	意見・質問の内容
1	アントレプレナーシップ教育を推進してほしいということで学校に下りてきた。理念は理解し、「do みつけ」を学校に呼ぶなど取り組みは進めているが、学校現場は多忙な状況。新たな事業を行うときは、スクラップするものもセットで示してほしい。
2	アントレプレナーシップ教育の実施に向け準備を進めているが、教員は起業したり利益を追求したりといった経験は薄い。そこで、先ほどの市長のプレゼンで説明のあったソーシャルベンチャー事業の関係者、地域おこし協力隊員などを学校に呼ぶことも選択肢の一つだと感じた。
3	学校施設の大規模改修は、いつごろ実施され、どのくらいの規模になるのか。5年後に創立50周年を控えていることもあり気になるところ。
4	小規模校ではなく大きな学校に通わせたいという保護者の声がある一方で、地域の学校を大事にしたいという思いを持っている人もいる。オープンスクールで学区外から通う子もいる。地域の方々は学校の統合を非常に心配されている。
5	年々児童数が減っているが、中には環境に惹かれて地域に移住してきた方もいる。そういった思いをお持ちの方は少なくないと思う。市の移住施策の取り組みについて教えてほしい。
6	和式トイレが多いので洋式化を望む。
7	児童数が増えており、教室が足りない学校もある。特に特別支援教室はよい環境を確保してあげたいので心配している。
8	見附は部活動地域移行が進んでいてありがたいが、保護者からは新たに送迎の必要性が生じて地域クラブでの活動に申し込まなかったとの声もある。これまでなかった経済的な負担もかかってくるため、家庭や受入団体への支援をお願いしたい。子どもたちが何か活動をやりたいと思ったときに、そういったことを心配せずに取り組めるシステムにしてほしい。